

9/4 感染症予防に貢献 日機装が除菌機 100 台寄贈

産 業用ポンプや医療機器などを手掛ける日機装（東京）が、同社が製造・販売する空間除菌消臭装置「エアロピュア」100台を町に寄贈しました。執行役員の渡辺恭介氏が下道町長に目録を手渡し、「エアロピュアは新型コロナウイルスの感染拡大で反響が大きかった。感染予防に活用してください」と呼び掛けました。下道町長は「町民に安心して施設を利用してもらえるように活用します」と感謝しました。



目録を手渡す渡辺氏（右）と下道町長

9/2 縄文遺跡活用に意見交換 鈴木直道知事が来町

鈴 木直道知事が来町し、下道町長などと入江・高砂貝塚の活用などについて意見交換しました。鈴木知事が道内市町村を訪れて地域の実情を聞き取る「なのおみちカフェ」の一環。貝塚館であいさつした鈴木知事は「世界遺産決定の熱気を共有し、町と縄文遺跡の魅力を発信してください」と呼び掛けました。鈴木知事は、竪穴住居や貝層の展示なども視察し、世界遺産を活用したまちづくりを呼び掛けていました。



貝塚について説明を受ける鈴木知事（左から2人目）

9/9 発足 60 周年で地域貢献 北海道行政書士会室蘭支部が寄付

北 海道行政書士会室蘭支部が町に現金10万円を寄付しました。同支部は今年で発足60周年を迎え、地域への感謝を込めて西胆振3市3町に10万円ずつ寄付しています。甲田啓一支部長が下道町長に寄付金を手渡し「高い倫理観を持って職務に当たり、今後も地域住民の生活向上に貢献したいです」と話しました。下道町長は「町としても行政書士の活動を広めていきたいです」と話しました。



寄付金を手渡す甲田支部長（中）

9/6 大規模自然災害に備えて 洞爺中で1日防災学校

洞 爺中学校（西村雄一校長）の1日防災学校が行われました。全生徒が参加し、町の防災担当から災害の解説を受けた後、段ボールベッドの組立て方を学びました。生徒たちは小型の段ボール箱6個を並べ、パーティションを立ててベッドを完成させました。実際に寝てみると「思ったより寝心地が良い」などの感想が聞かれ「今日教わったことを意識して防災に活かしたいです」と話していました。



段ボールベッドの寝心地を確認する生徒

9/15

120年余の伝統の舞を継承 月浦獅子舞を奉納

町の無形文化財に指定されている「月浦獅子舞」が奉納されました。月浦獅子舞は、香川県からの入植者が月浦八幡神社を建立した1900年から始まったとされています。以降、9月14、15日のいずれかに毎年奉納され、120年以上の歴史を重ねてきました。

今回はコロナ禍の影響で3年ぶりに一般公開。写真愛好家がカメラを向ける中、威勢の良い獅子舞と稚児の鼓の音が地域住民を楽しませました。



120年以上の歴史をつないだ月浦獅子舞

9/9

音楽やダンスで練習の成果を披露 虻田中が学校祭開催

虻田中学校（瀧澤義守校長）の学校祭が行われました。「爽々あふれる想い はじける個性」をテーマに掲げ、吹奏楽部のコンサートで幕開け。人気のポップスやアニメ曲を演奏し、生徒や保護者が見守る会場を盛り上げました。

ダンスでは、チームごとに息の合った動きを見せて練習の成果を発揮しました。他にも自由発表が行われ、個性的なパフォーマンスで観客の注目を集めていました。



息の合った演奏を聞かせる吹奏楽部

9/22

高校生が洞爺湖の魅力进行解説 虻田高と洞爺湖温泉小が観光ガイド体験

虻田高校（千葉佳貴校長）の観光ガイド体験が行われました。

案内を受けたのは、中島へ遠足に行く洞爺湖温泉小学校の児童たち。高校生は、授業で作成したイラスト入りの資料を使い、洞爺湖の成り立ちなどを説明しました。

小学生は、説明で分からなかったところをガイドに尋ねながら、慣れ親しんだ洞爺湖の歴史を学んでいました。



児童に洞爺湖の成り立ちを解説する虻田高校の生徒

9/21

洞爺湖町の環境を学ぶ JICA青年研修生が研修会

JICA（国際協力機構）の青年研修生が、町を訪れて洞爺湖や有珠山などの自然環境、町の産業について学びました。

JICAが実施している青年研修の一環で、南アフリカやジャマイカ、モーリシヤス諸島などから10人が来町しました。役場では、担当職員が自然保護の取り組みのほか、地熱発電やごみ削減など環境に配慮した事業について説明し、研修生は熱心に聞き入っていました。



町の環境などについて学ぶJICAの研修生